

目次

あいさつ・祝辞

黒川地域行政事務組合理事会理事長	浅野 元	1
黒川地域行政事務組合議会議長	犬飼克子	2
黒川地域行政事務組合消防本部消防長	清野康広	3

第1編 組織概要

構成市町村の紹介・人口・世帯数	5
歴代理事長（管理者）及び消防長	8
消防本部・署所の概要	9
消防力の現勢	12

第2編 統計

災害（火災・救急・救助）統計	15
----------------	----

第3編 あゆみ

黒川地域消防発足50年のあゆみと主な災害記録	19
------------------------	----

第4編 資料

黒川地域消防本部・黒川消防署の変遷	34
-------------------	----

ごあいさつ

黒川地域行政事務組合理事会

理事長 浅野 元



黒川地域行政事務組合は、消防業務を開始し50周年という記念すべき節目の年を迎えることが出来ました。これもひとえに地域の皆様をはじめ、関係各位の深いご理解とご協力の賜物であると、心から感謝申し上げます。

本組合消防本部は、昭和46年10月に黒川郡の3町1村で構成する黒川地区消防事務組合として設立し、昭和48年3月、職員数20名をもって消防業務を開始しました。

平成3年4月に現在の黒川地域行政事務組合に移行し、現在は富谷市、大和町、大郷町、大衡村の1市2町1村で構成、1消防本部・2消防署・2出張所、職員152名で地域に密着した消防本部に発展してまいりました。

さて、東日本大震災から今年で12年、また令和元年台風19号から4年目をむかえました。これらの大災害により、私たちがこれまでに経験したことのない未曾有の被害を受けましたが、県内外の多くの団体や関係者皆様のご協力のもと困難を乗り越えてまいりましたことに対し、改めて感謝申し上げます。

今日、我が国を取り巻く社会情勢や自然環境は大きく変化しており、生活様式の多様化や少子高齢化、また自然災害は激甚化及び頻発化しており、大規模地震発生への危惧など、予測が困難で複雑多様化する状況であり、今後も続くことが予想されます。

地域住民の生命、身体及び財産を守るためには、防災力の一層の向上が不可欠であり、半世紀の中で培われ、受け継がれてきた教訓や経験を基に、住民一人ひとりが、安全で安心して暮らすことが出来る地域を目指してまいります。

結びに、発足50周年を契機として、地域の皆様が本組合消防本部に対するご理解を一層深めていただきますことをご祈念申し上げ、50周年記念のあいさつといたします。

理事（富谷市長）

若生 裕俊



理事（大郷町長）

田中 学



理事（大衡村長）

小川 ひろみ



50周年を祝して

黒川地域行政事務組合議会

議長 犬飼 克子



このたび、黒川地域消防が、発足50周年を迎えられましたこと、心からお祝い申し上げます。

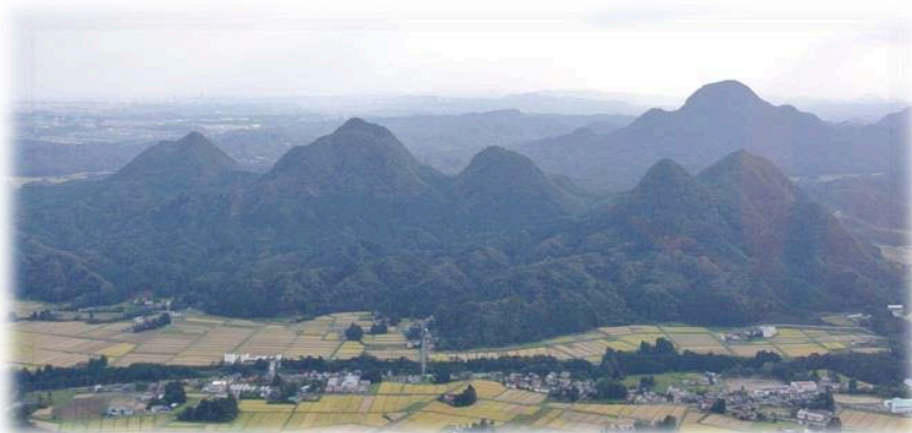
また、消防職員の皆様方には、黒川地域管内約9万4千の生命、身体及び財産を火災や風水害などの各種災害から保護するとともに、これらの災害による被害を最小限にとどめるため、日夜献身的にご尽力いただいておりますことに、深く感謝申し上げます。

さて、黒川地域はこの50年間に目覚ましい発展を遂げ、今もなお都市化の発展とともに人口の増加が続いております。このような状況に伴い、消防力の強化が推進され、組織や施設、装備等の充実により各種災害に対応できる消防力を備えて来たことを認識しております。

その一方で、社会構造や自然環境の変化等により、災害も複雑多様化しており、さらに近年の災害は私達の想像をはるかに超えるような甚大な被害をもたらすなど、安全で安心な生活を願う住民の皆様の消防に寄せる期待は高まっていると感じております。今後におきましても、50年にわたる年月の中で培ってきた経験と技術力をいかに発揮していただき、引き続き住民の皆様の完全なる安寧な生活の確保に取り組んでいただきますよう、お願いいたします。

黒川地域行政事務組合議会といたしましても、災害に強く、安全で安心な地域社会づくりに向けて、消防防災体制の充実強化をさらに推進してまいり所存でございます。

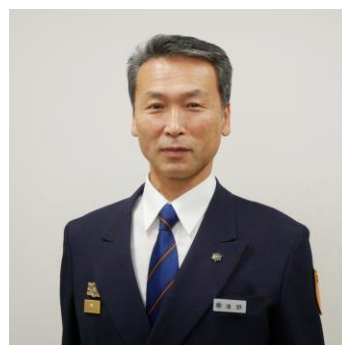
結びに、消防職員の皆様方におかれましては、健康に留意され、ご活躍されますとともに、50周年を契機に黒川地域消防が益々発展されますことをご祈念いたしまして、お祝いの言葉といたします。



50周年を迎えて

黒川地域行政事務組合消防本部

消防長 清野 康広



この度、黒川地域消防が発足されてから50周年の節目を迎えました。

この間、構成市町村である富谷市、大和町、大郷町、大衡村を始め、消防関係機関皆様の深いご理解とご協力により、防火防災の要となる常備消防に充実発展してまいりました。

多くの皆様のご苦勞やご尽力に対しまして深く敬意と感謝を申し上げます。

当消防は昭和48年3月に大和町吉田字北谷地で消防業務を開始し、平成3年4月には公立黒川病院や環境衛生、環境管理、浄斎場と複合化し、黒川地域行政事務組合として、より一層地域に密着した消防本部として発展してまいりました。

近年では、令和元年12月に発生した新型コロナウイルス感染症(COVID-19)が世界規模で拡大し、長期にわたり猛威を振るいました。令和5年5月に感染法上の位置づけが2類から5類になり、これに係る救急出動も激減したかに感じるところですが、「感染症」は数年ごとに世界規模で発生していることから、今後とも継続した備えが必要であるとされています。

また、全国各地で発生している台風や局地的な集中豪雨などによる自然災害、強風下において延焼拡大する建物火災、超大型倉庫の火災など、現有する消防能力を上回る大規模化した自然災害や大規模火災も数多く発生しています。

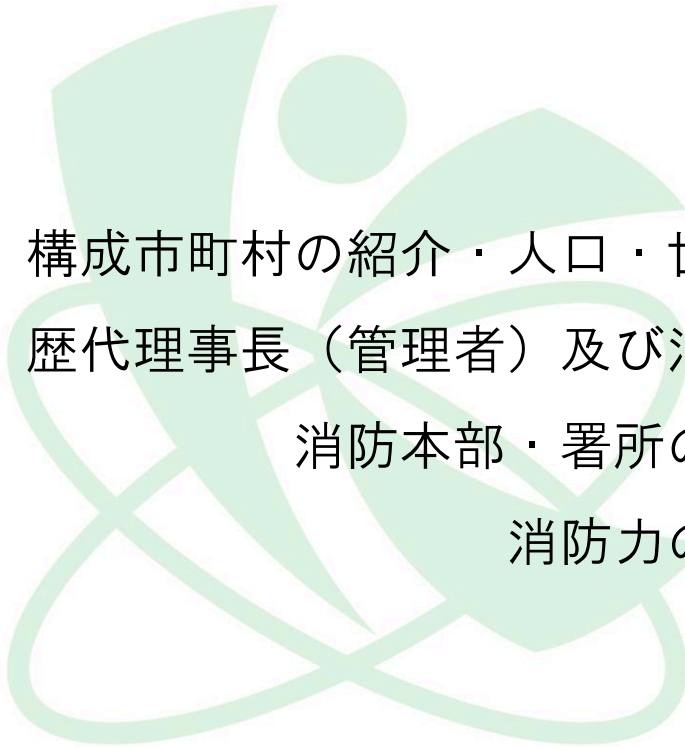
特に当地域においては昭和61年8月と平成27年9月、令和元年10月に発生した豪雨により河川が増水し、各地に甚大な被害が発生しました。現在の消防本部庁舎もこの時、床上まで浸水し、緊急車両の出動に大きな影響を与えたほどでした。

このような中、災害に強く地域の皆さんに安全・安心を提供する「新たな防災拠点」として、令和8年4月の消防庁舎開庁を目指し、現在、移転事業を進めているところです。

令和5年4月現在、黒川地域消防が管轄する4市町村を合わせた人口は9万3千人を超えており、今なお増加し続けていることから、一般的な火災や救急、救助活動だけではなく、感染症や大規模災害等のほか、今後も起こりうる災害にも対応できますよう消防活動体制の更なる充実化を図り、また、各市町村の消防団や婦人・女性防火クラブ、各消防関係機関の皆様と連携し、「住民の生命、身体、財産を守る」という崇高な任務の一翼を担い、職員が一層の結束を固め取り組む所存であります。今後とも黒川地域消防に対しまして、ご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

第1編

組織概要



構成市町村の紹介・人口・世帯数	— 5
歴代理事長（管理者）及び消防長	— 8
消防本部・署所の概要	— 9
消防力の現勢	— 12



～ 富谷市 ～

富谷市は、宮城県のほぼ中央に位置し、仙台都市圏の居住機能を担うエリアとして位置づけられており、多くのニュータウンが開発・分譲されています。仙台市に隣接し、交通環境にも優れた特性を持っており、泉 IC や大和 IC まで約 5 km 圏内の距離にあります。明治 22 年に富谷村が誕生し、昭和 38 年に町制施行してから着実に人口が増え続け、平成 28 年 10 月 10 日に富谷市が誕生しました。

本市の大きな特徴として、かつて奥州街道の宿場町として栄えた「しんまち地区」をはじめとする古き良き富谷を守り継いできた地域と、自然環境と住環境の調和による独自の魅力により全国各地から人が集まった新しい地域が融合しています。市では、「住みたくなるまち日本一」の実現を目指し、多様な地域の多様な人と資源を生かしながら「オールとみや」で魅力あるまちづくりを進めています。



～ 大和町 ～

大和町は、宮城県のほぼ中央に位置し、町のシンボル七ツ森や船形山そして吉田川に代表される恵まれた自然と古(いにしえ)からの歴史と文化の豊かな町です。

町の東部には宮城米「ひとめぼれ」の田園風景が広がり、県内最大の工業団地である「仙台北部中核工業団地」には自動車関連産業などの数多くの企業が立地しております。西部には観光スポットとしてにぎわう南川ダムをはじめ、宮床伊達家ゆかりの伝承品を保存・展示した「宮床宝蔵」や女流歌人“原阿佐緒”の生家を修復、一部改築した「原阿佐緒記念館」などのほか、看護学群や事業構想学群を設置している公立宮城大学や、未来を開く高度電子機械産業などの企業が立地する「大和リサーチパーク」があります。

現在は、宮城県におけるものづくり産業の拠点として「富県宮城」の一翼を担うとともに、人口も増加しており、今後、新たな流通業務地・住宅地の整備等も予定されていることから、今後更なる発展が期待されております。



～ 大郷町 ～

大郷町は、宮城県のほぼ中央に位置し、自然環境にめぐまれた豊饒の地です。

百万都市仙台から車で約30分、三陸自動車道松島大郷インターへは5分、東北自動車道大和インターへは15分と、県内はもちろんのこと、どこに移動するのも便利です。

町の中央部を西から東へ吉田川が流れ、その流域には豊かな水田地帯が広がり、のどかな田園風景を臨むことができます。

気候も温暖で積雪も少なく、季節の移り変わりを実感できる、自然豊かな環境が魅力で、住みよい住空間が広がっています。

より良い自然環境が注目される現代、大郷町は魅力ある豊かな自然を生かしながら、町民と行政が力を結集し、一人ひとりが創意工夫を重ね、一人ひとりが積極的に行動し、一人ひとりが魅力あるまちづくりを創造することで、活力があり安心して暮らせるまち、心豊かで持続的に発展するまちを目指します。



～ 大衡村 ～

大衡村は、宮城県のほぼ中央に位置し総面積60.32平方キロメートルで、東西16km、南北7kmの東西に長い楕円形の村です。南部は黒川郡大和町、東部は同大郷町、北東部は大崎市(旧三本木町)、北西部は加美郡色麻町にそれぞれ隣接しています。

また、中央部に国道4号、東部に東北自動車道、東北新幹線が南北に縦貫しており、仙台市(県庁)まで南へ25km、大崎市(旧古川市)までは北へ15kmの距離にあります。

また、大衡村は仙台平野の西方奥羽山脈より東部に派生した丘陵地で、標高262.1mの達居森を最高に概ね標高80m以下の緩傾斜をなす地帯で樹枝状に広がる平坦部からなっています。山林原野等は総面積の約65%を占め、内30%を占める北西部一帯は陸上自衛隊王城寺原演習場として利用されています。

気候は、内陸性気候の影響を受け、気温は年平均11度位で、夏は南東の風で降水量もやや多く、冬は北西の風が強いが積雪は多いときで20cm程です。

構成市町村世帯数推移

市町村	昭和48年3月(1973年)	令和5年3月(2023年)
富谷市	1,250	20,207
大和町	3,938	12,283
大郷町	2,074	2,906
大衡村	1,070	2,094
計	8,332	37,490

(世帯)

構成市町村人口推移

市町村	昭和48年3月(1973年)	令和5年3月(2023年)
富谷市	5,886	52,375
大和町	18,104	28,131
大郷町	10,151	7,718
大衡村	5,188	5,638
計	39,329	93,862

(人)



歴代理事長（管理者）及び消防長

歴代組合管理者（黒川地区消防事務組合）

	氏名	職名	就任期間
初代	浅野多一郎	大和町長	昭和46年10月21日～昭和58年8月18日
第2代	木幡恒雄	大和町長	昭和58年10月9日～平成3年3月31日

歴代組合理事会理事長（黒川地域行政事務組合）

	氏名	職名	就任期間
初代	木幡恒雄	大和町長	平成3年4月1日～平成11年10月8日
第2代	浅野元	大和町長	平成11年10月29日～現在

歴代消防長

	氏名	就任期間
初代	浅野多一郎（管理者兼務）	昭和48年3月31日～昭和54年3月31日
第2代	菅原敏夫	昭和54年4月1日～昭和61年3月31日
第3代	村元敏一	昭和61年4月1日～平成9年3月31日
第4代	菅野裕（組合助役兼務）	平成9年4月1日～平成11年3月31日
第5代	三野宮定夫（組合助役兼務）	平成11年4月1日～平成15年3月31日
第6代	磯部利彦	平成15年4月1日～平成17年3月31日
第7代	三野宮定夫（組合助役兼務）	平成17年4月1日～平成19年3月31日
第8代	田村雄二	平成19年4月1日～平成20年3月31日
第9代	佐藤勝志	平成20年4月1日～平成22年3月31日
第10代	大友司郎	平成22年4月1日～平成25年3月31日
第11代	大友秀也	平成25年4月1日～平成26年3月31日
第12代	恵津春芳	平成26年4月1日～平成28年3月31日
第13代	千葉清	平成28年4月1日～平成30年3月31日
第14代	坪子一夫	平成30年4月1日～平成31年3月31日
第15代	佐藤喜好	平成31年4月1日～令和3年3月31日
第16代	石川勉	令和3年4月1日～令和4年3月31日
第17代	跡部信一	令和4年4月1日～令和5年3月31日
第18代	清野康広	令和5年4月1日～現在

消防本部・署所の概要



消防本部・黒川消防署（併設）

〒981-3625 宮城県黒川郡大和町吉田字北谷地1 2番地

TEL 022-345-4161（代） FAX 022-345-0012

総務課 022-345-6778 予防課（設備指導係） 022-345-3944

警防課 022-345-6888 予防課（危険物係） 022-345-4744

黒川消防署大郷出張所

〒981-3521 宮城県黒川郡大郷町中村字東要害1 1番地の6

TEL 022-359-3150 FAX 022-359-3197

黒川消防署大衡出張所

〒981-3602 宮城県黒川郡大衡村大衡字一本木2 1番地2 0

TEL 022-345-0900 FAX 022-345-0904

富谷消防署

〒981-3352 宮城県富谷市富ヶ丘一丁目2 0番1号

TEL 022-358-5474 FAX 022-358-5485

消防本部・黒川消防署（併設）

竣工年月日	昭和48年3月31日
構造	鉄筋コンクリート
延べ面積	1,206.68㎡
敷地面積	4,883.005㎡
本部車両	5台 指令車、広報車、連絡車×2、救急普及啓発広報車
署車両	9台 指揮車、ポンプ車、水槽付ポンプ車、化学車、救助工作車、高規格救急車、資機材搬送車×2、高規格救急車（予備車）



黒川消防署大郷出張所

竣工年月日	平成15年3月30日
構造	鉄筋コンクリート
延べ面積	895.36㎡
敷地面積	2,174.33㎡
所車両	4台 ポンプ車、高規格救急車、資機材搬送車、連絡車



黒川消防署大衡出張所

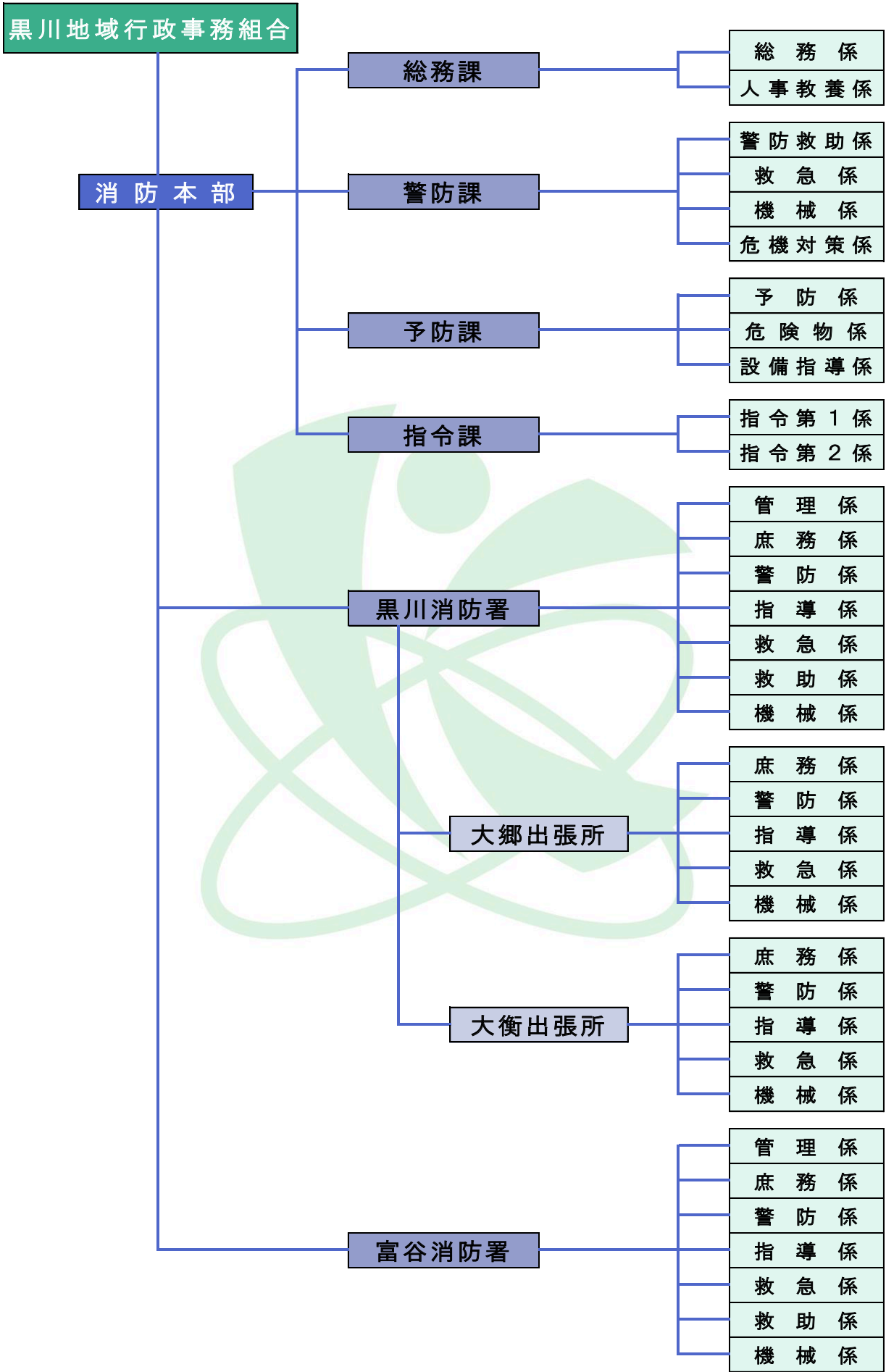
竣工年月日	平成7年3月28日
増築年月日	平成24年4月27日
構造	鉄筋コンクリート
延べ面積	692.95㎡（41.27㎡増築）
敷地面積	2,689.13㎡
所車両	3台 水槽付ポンプ車、高規格救急車、連絡車



富谷消防署

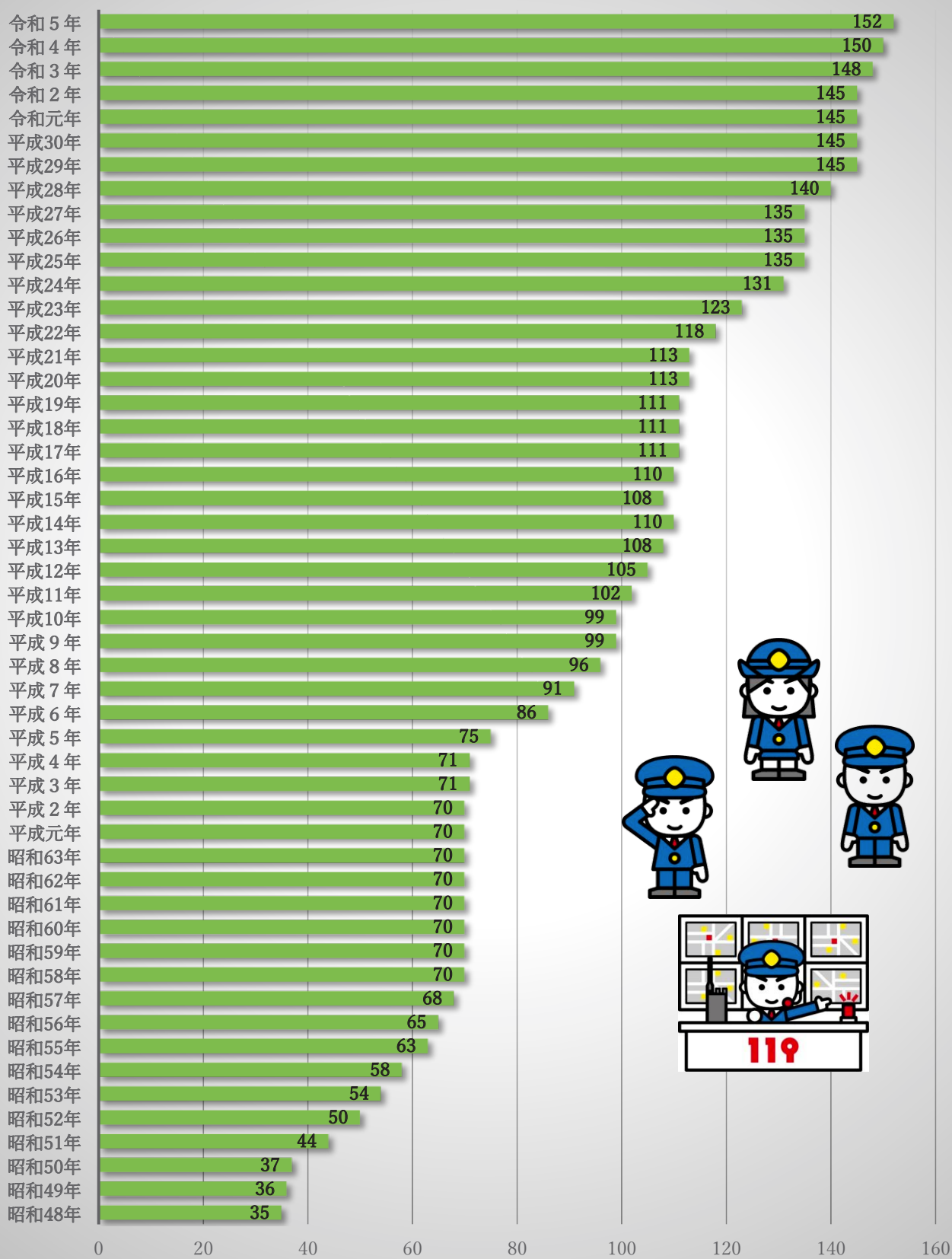
竣工年月日	平成10年3月30日
増築年月日	令和3年3月19日（女性隊舎）
構造	鉄筋コンクリート
延べ面積	924.63㎡（37.62㎡増築）
敷地面積	5,094.90㎡
署車両	8台 指揮車、ポンプ車、水槽付ポンプ車、大型水槽車、高規格救急車×2、連絡車、ボートトレーラー





消防力の現勢

消防職員の推移 (人)



消防職員・所属・階級別職員数

令和5年4月1日現在

区 分	合計	消 防 吏 員							消防 吏員 以外 職員
		消防監	消防 司令長	消防 司令	消防 司令補	消防 士長	消防 副士長	消防士	
消 防 本 部	34	1	5	7	7	6	2	5	1
黒 川 消 防 署	39		2	6	7	10	10	4	
大 郷 出 張 所	21			5	3	4	7	2	
大 衡 出 張 所	21			3	4	4	5	5	
富 谷 消 防 署	37		2	7	5	13	5	5	
合 計	152	1	9	28	26	37	29	21	1

消防職員年齢構成

令和5年4月1日現在

区 分	合 計	消 防 吏 員							消防 吏員 以外 職員
		消防監	消防 司令長	消防 司令	消防 司令補	消防 士長	消防 副士長	消防士	
人 員	152	1	9	28	26	37	29	21	1
平 均 年 齢	35.4	58.0	51.2	47.6	44.3	31.6	26.3	21.0	
18歳～25歳	29						8	21	
26歳～30歳	35					14	20		
31歳～35歳	25				2	22	1		
36歳～40歳	9				8	1			
41歳～45歳	12			3	9				
46歳～50歳	32		7	23	2				
51歳～55歳	1				1				
56歳～65歳	9	1	2	2	4				

第2編

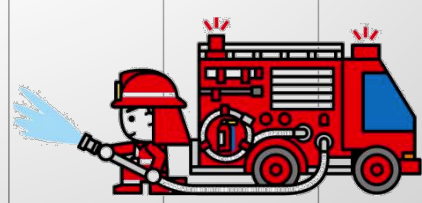
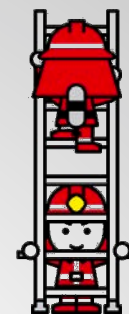
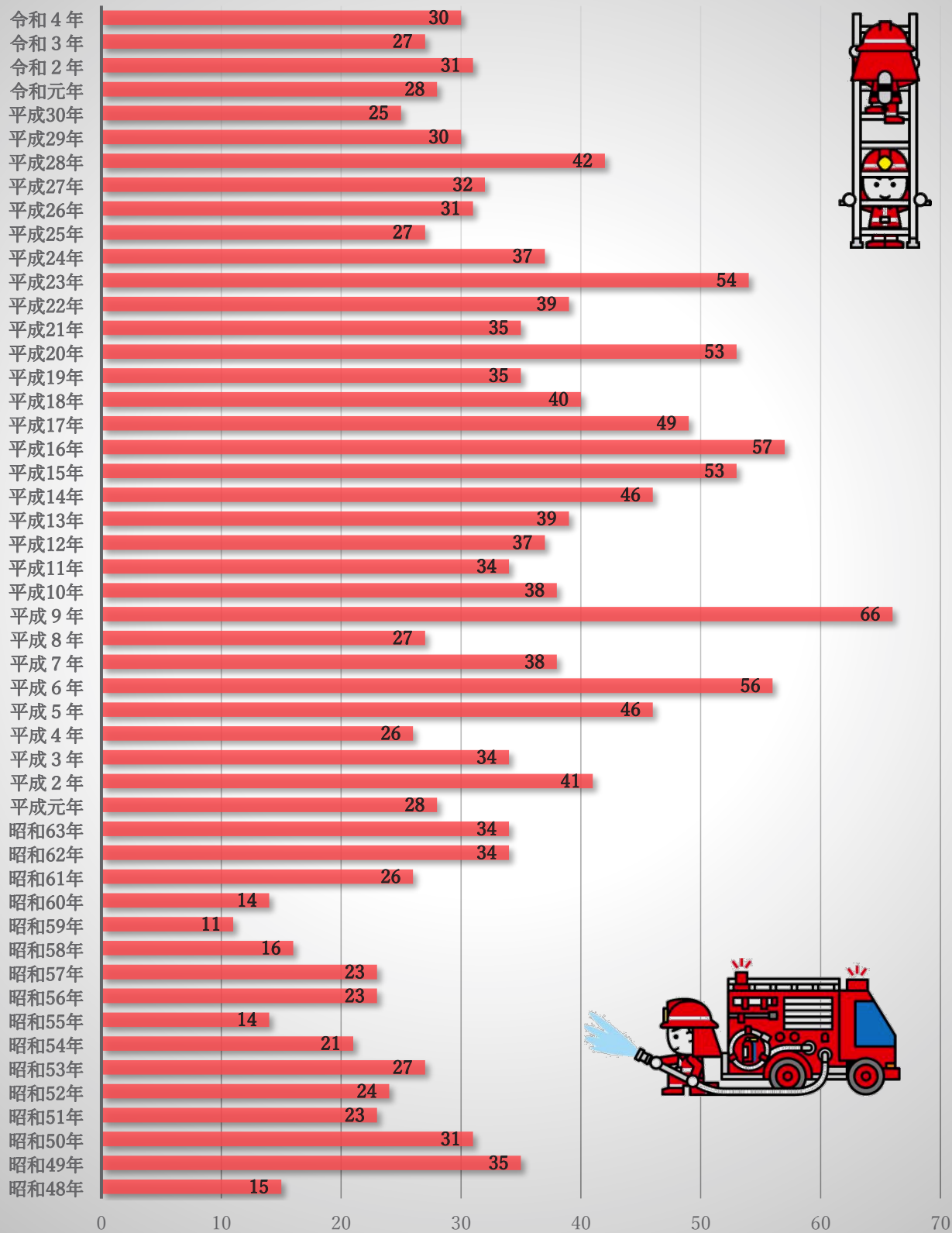
統計

災害（火災・救急・救助）統計 — 15

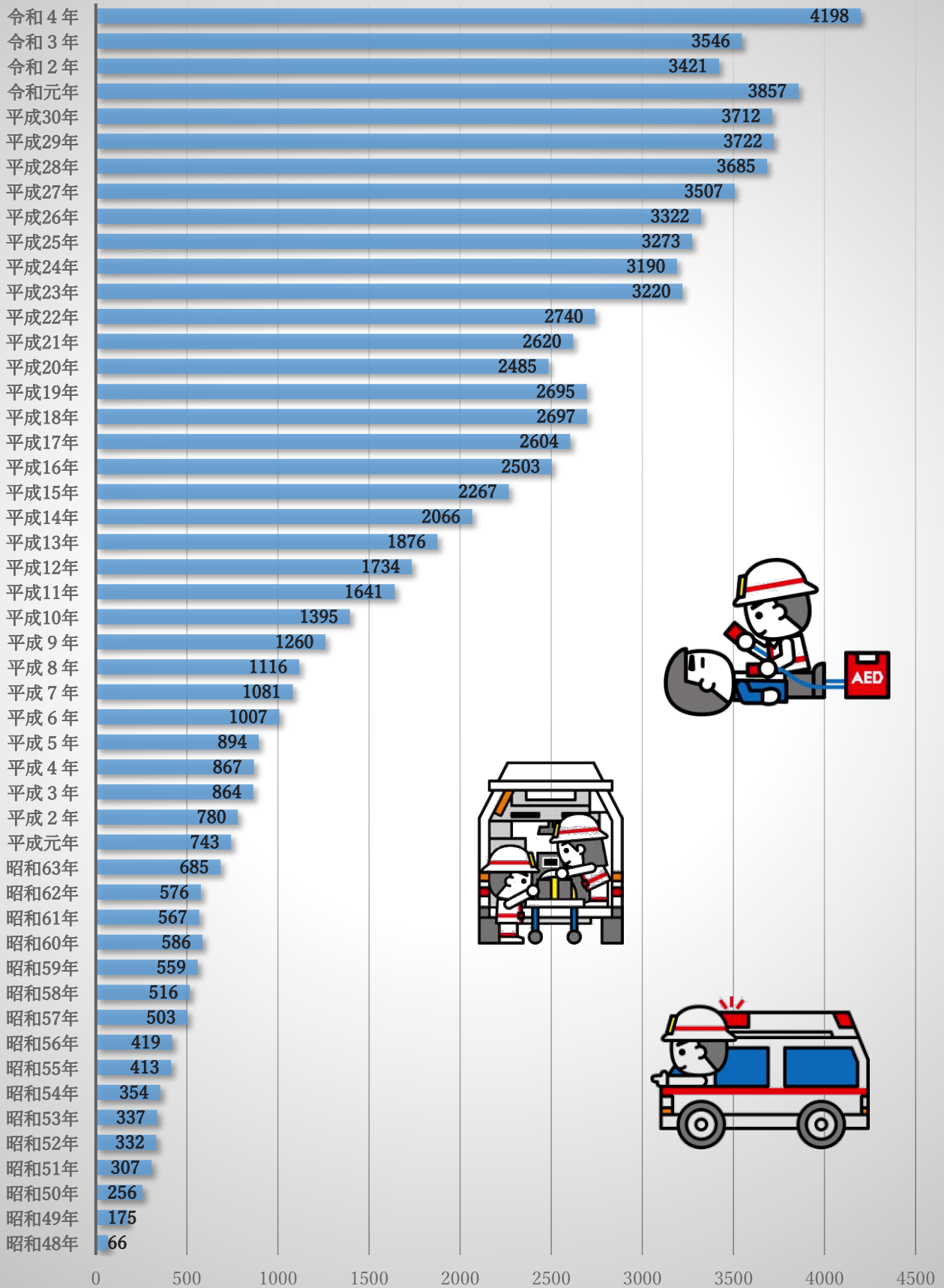


災害（火災・救急・救助）統計

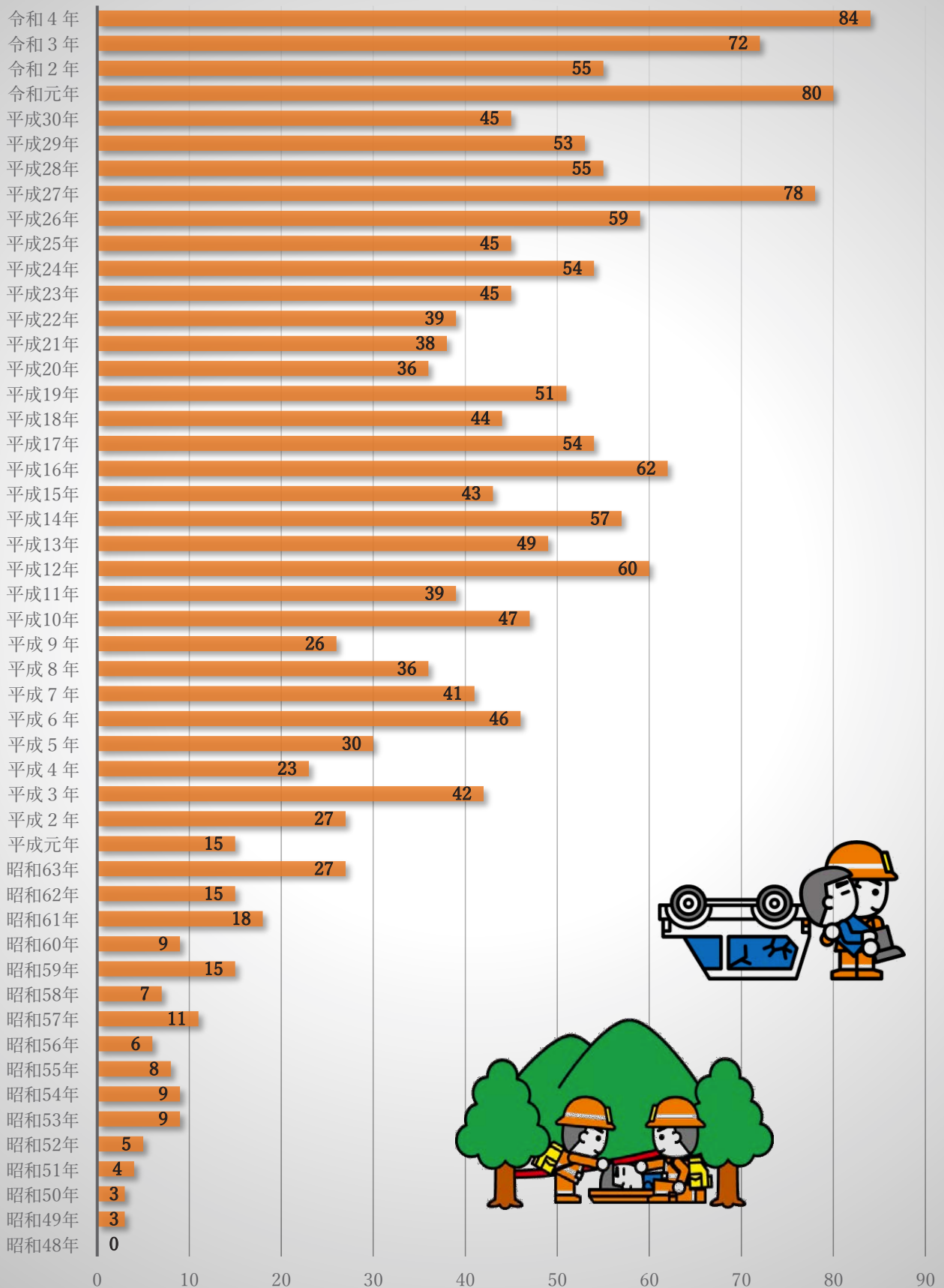
火災件数の推移（件）



救急件数の推移 (件)



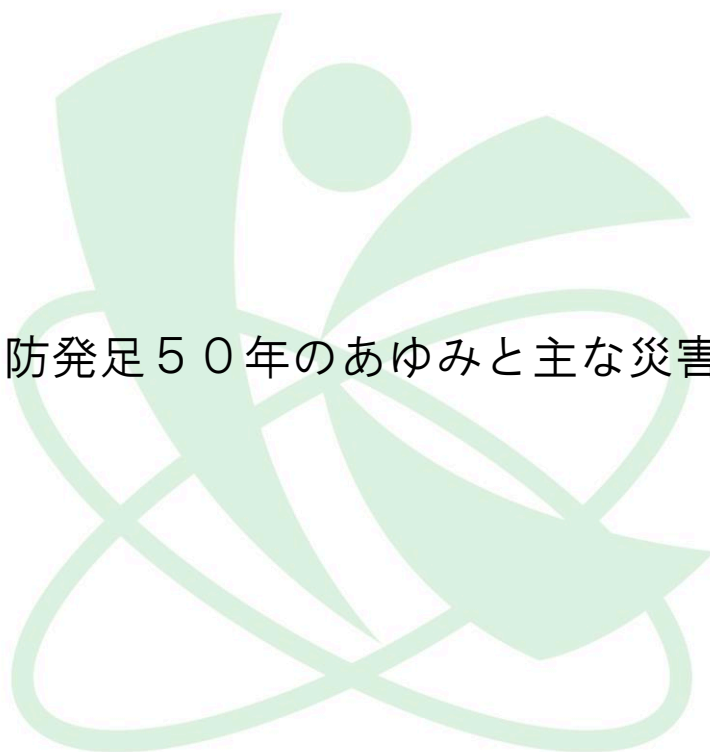
救助件数の推移（件）



第3編

あゆみ

黒川地域消防発足50年のあゆみと主な災害記録 — 19



黒川地域消防発足50年のあゆみと主な災害記録

昭和46年

- 10月 ◆黒川地区消防事務組合設立

昭和47年

- 3月 ◆消防職員定数37名に制定
- 9月 ◆消防本部設置(大和町役場内)



昭和48年(1973年)

- 3月 ◆消防ポンプ自動車を購入
 - ◆消防専用無線開局、指令車、救急自動車を購入
 - ◆消防庁舎竣工式、**消防業務開始**
 - ◆初代消防長に管理者の大和町長浅野多一郎氏就任
- 4月 ◆消防相互応援協定を締結(1市5町2組合1団体)
- 8月 ◆救急業務開始、救急専用無線開局
- 11月 ◆水槽付きポンプ自動車を購入



昭和49年

- 3月 ◆救急指令装置新設工事落成式

昭和50年

- 4月 ◆消防特別救助隊発足11名
- 9月 ◆消防職員定数44名に改正

昭和51年

- 4月 ◆黒川消防署発足3周年記念式典挙行
- 5月 ◆連絡車、小型動力ポンプを購入
- 9月 ◆消防職員定数51名に改正
 - ◆日本損害保険協会から消防ポンプ自動車の寄贈
- 10月 ◆黒川消防署大郷出張所落成開庁(消防ポンプ自動車1台配置、職員6名配属)
 - ◆東北縦貫自動車道供用に伴う救急業務開始

昭和52年

- 6月 ◆指令車を更新し、本部に設置
- 7月 ◆黒川消防署整備庫完成
- 12月 ◆救助工作車を購入黒川消防署に配置
 - ◆訓練塔完成



昭和53年

- 2月 ◆消防職員定数60名に改正
- 4月 ◆黒川消防発足5周年記念式典挙行
- 5月 ◆査察車を新規購入し、黒川消防署に配置
◆補助訓練塔完成
- 6月 ◆消防ポンプ自動車購入黒川消防署に配置
◆宮城県沖地震(M7.4)
- 11月 ◆屋内洗車場完成



昭和54年

- 2月 ◆音楽隊発足22名
◆消防本部旗制定
◆消防職員定数70名に改正
- 4月 ◆消防長に菅原敏夫氏就任
- 5月 ◆広報車を購入黒川消防署に配置
- 6月 ◆消防ポンプ自動車を購入黒川消防署に配置



昭和55年

- 5月 ◆高田訓練場整備完了
- 9月 ◆水槽付きポンプ自動車購入黒川消防署に配置
- 10月 ◆黒川消防署富谷出張所落成開庁
(水槽付きポンプ自動車1台配置、職員6名配属)
- 11月 ◆日本防火協会より防火広報車の寄贈を受け、黒川消防署に配置

昭和56年

- 4月 ◆連絡車を購入し、黒川消防署大郷出張所に配置
◆ポンプ積載車を購入し、黒川消防署に配置



昭和57年

- 2月 ◆救急自動車を更新し、黒川消防署に配置
- 9月 ◆台風18号による大雨災害

昭和58年 (1983年)

- 1月 ◆消防ポンプ自動車を更新し、黒川消防署に配置8月
◆日本消防協会より広報車の寄贈を受け、本部に配置
- 4月 ◆大規模林野火災
(仙台市・泉市・大和町・富谷町・利府町)
- 9月 ◆救急業務用地図等検索装置設置
- 10月 ◆管理者に大和町長木幡恒雄氏就任
- 11月 ◆黒川消防発足10周年記念式典挙行



昭和59年

- 9月 ◆日本消防協会より救急自動車の寄贈を受け、黒川消防署に配置

昭和60年

- 9月 ◆日本損害保険協会より消防ポンプ自動車の寄贈を受け、黒川消防署富谷出張所に配置

昭和61年

- 4月 ◆消防長に村元敏一氏就任
- 7月 ◆黒川消防会場にて「宮城県消防救助技術指導会」開催
- 8月 ◆台風10号による大雨災害(8.5豪雨)



昭和62年

- 11月 ◆東北縦貫道自動車道宮城県消防相互応援協定を締結(3市4組合)

昭和63年

- 2月 ◆宮城県共済農業協同組合連合会より救急自動車寄贈を受け、黒川消防署に配置
- 3月 ◆黒川消防発足 15 周年記念式典挙行

平成元年

- 9月 ◆水槽付きポンプ自動車更新し、黒川消防署富谷出張所に配置
◆消防職員定数75名に改正
- 11月 ◆査察車を更新し、黒川消防署に配置

平成2年

- 7月 ◆大和・富谷土地区画整理組合より消防ポンプ自動車の寄贈を受け、黒川消防署に配置
- 9月 ◆日本消防協会より救急自動車の寄贈を受け、黒川消防署に配置
◆日本防火協会より防火広報車の寄贈を受け、本部に配置
- 12月 ◆資材搬送車を購入し、黒川消防署に配置

平成3年

- 4月 ◆一部事務組合複合化により
黒川地域行政事務組合設立
- 7月 ◆指令車を更新し、本部に配置
◆積載車を更新し、黒川消防署大郷出張所に配置



平成4年

- 1月 ◆宮城県共済農業協同組合連合会より救急自動車の寄贈を受け、
黒川消防署に配置
- 4月 ◆宮城県広域消防相互応援協定を締結(県内12消防本部)
◆宮城県広域航空消防相互応援協定を締結(県・県内12消防本部)
- 10月 ◆日本損害保険協会より化学消防ポンプ自動車の寄贈を受け、
黒川消防署に配置

平成5年(1993年)

- 4月 ◆消防緊急通信指令施設更新
- 5月 ◆本部庁舎二階改修工事
- 6月 ◆消防緊急通信指令施設開設記念式及び祝賀会
(黒川消防発足20周年)
- 7月 ◆査察車を更新し、黒川消防署に配置
- 8月 ◆日本消防協会より携帯無線機5基寄贈を受ける
- 9月 ◆消防職員定数105名に改正
- 11月 ◆消防ポンプ自動車を更新し、黒川消防署大郷出張所に配置



平成6年

- 5月 ◆救急救命士第1期生誕生



平成7年

- 2月 ◆高規格救急車を1台購入し、黒川消防署に配置
◆県防災ヘリコプターを使用した大規模特殊災害時における
広域航空消防応援に関する協定を締結(県・県内12消防本部)
- 3月 ◆黒川消防署大郷出張所庁舎落成式
(防災ヘリコプター臨時ヘリポート併設)
- 4月 ◆黒川消防署大郷出張所業務開始
(化学消防ポンプ自動車1台配置、職員6名配属)
- 10月 ◆大型水槽車を新規購入し、黒川消防署に配置



平成8年

- 10月 ◆補助訓練塔移設

平成9年

- 4月 ◆消防長に菅野裕氏就任
- 12月 ◆高規格救急車を更新し、黒川消防署に配置

平成10年

- 3月 ◆連絡車を新規購入し、黒川消防署富谷出張所に配置
- ◆黒川消防署富谷出張所移転新築庁舎落成式
- 4月 ◆黒川消防署富谷出張所業務開始(水槽付きポンプ自動車1台、連絡車1台
高規格救急車を1台配置し救急業務を開始する。職員19名配属)

平成11年

- 1月 ◆救助工作車を更新し、黒川消防署に配置
- 2月 ◆広報車を更新し、黒川消防署に配置
- 4月 ◆消防長に三野宮定夫氏就任
- 9月 ◆第一回救急標語コンクールを実施(表彰式)
- 11月 ◆管理者に大和町長浅野元氏就任
- 12月 ◆水槽付きポンプ自動車を更新し、黒川消防署富谷出張所に配置



平成12年

- 10月 ◆黒川郡東部地域救急支援活動開始
- 12月 ◆高規格救急車を購入(更新)し、
黒川消防署に配置



平成13年

- 4月 ◆消防職員定数113名に改正
- 5月 ◆連絡車を新規購入し、本部に配置

平成14年

- 8月 ◆2002年W杯サッカー消防・救急警戒により消防庁長官褒状受賞
- 12月 ◆指揮車を更新し、黒川消防署に配置

平成15年(2003年)

- 3月 ◆黒川消防署大郷出張所移転新築庁舎開所式
- 4月 ◆消防長に磯部利彦氏就任
- ◆黒川消防署大郷出張所新庁舎にて業務開始、
救急車を配置し救急業務開始
- 7月 ◆宮城県北部連続地震により、大崎地域へ応援(宮城県広域消防相互応援に伴う出場
大型水槽車1隊、人員2名給水の為派遣)
- 9月 ◆黒川消防発足30周年記念誌発行



平成16年

- 1月 ◆宮城県内広域消防応援出動に伴い、平成15年度消防庁長官褒状受賞
(平成15年7月26日からの宮城県北部連続地震時)
- 3月 ◆高規格救急車1台購入し、黒川消防署大郷出張所に配置
- 4月 ◆消防組織法に基づく緊急消防援助隊の登録

平成17年

- 4月 ◆消防長に三野宮定夫氏就任
◆危機管理担当部署を新たに設置

平成18年

- 1月 ◆本部庁舎耐震補強工事完了
- 3月 ◆富谷町上桜木土地区画整理組合より
消防ポンプ車及び高規格救急車を寄贈される
- 4月 ◆機構改革により、通信指令室を指令課に、総務課と警防課を統合して
消防課とし、新たな組織体制
- 12月 ◆防衛庁補助による水槽付消防ポンプ車を黒川消防署に配置



平成19年

- 4月 ◆消防長に田村雄二氏就任
◆黒川消防署富谷出張所職員数を増員し、黒川南部の警防態勢を強化
- 12月 ◆広報車を更新し、本部に配置

平成20年

- 4月 ◆消防長に佐藤勝志氏就任
- 6月 ◆岩手・宮城内陸地震により栗原市へ応援(宮城県広域消防相互応援に伴う出場
派遣期間 9日間延べ人員52名、27隊)



平成21年

- 4月 ◆機構改革により、消防本部消防課を総務課と警防課に改める
- 12月 ◆高規格救急車を更新し、黒川消防署に配置
◆消防職員定数を135名に改正

平成22年

- 1月 ◆消防本部通信指令室の自動出場指令装置・地図検索装置を部分更新し、
出場指令書の伝送装置を新設
- 4月 ◆消防長に大友司郎氏就任

平成23年

- 1月 ◆消防ポンプ車を更新し、黒川消防署大郷出張所に配置
- 3月 ◆東北地方太平洋沖地震(マグニチュード9.0)の発生に伴い、震災非常配備態勢を発令、
消防本部内に警防本部を設置し震災対応(宮城県広域消防相互応援に伴う出場
石巻、塩釜消防本部 派遣期間22日間、延べ人員84名、21隊)



発災直後庁舎内



警防本部



全国防災航空隊ヘリ前進指揮所支援(利府グランディ21)



石巻消防へ広域応援

- 11月 ◆東日本大震災に伴う、宮城県内広域消防応援出動により総務大臣褒状を受賞

平成24年

- 4月 ◆黒川消防署大衡出張所に8名を増員、高規格救急車を配置し救急業務を開始
- ◆黒川消防署富谷出張所に3名を増員し、黒川南部の警防態勢を強化
- ◆黒川消防署大衡出張所増築及び改修工事完了
- 8月 ◆資材搬送車を更新し、黒川消防署大郷出張所に配置

平成25年(2013年)

- 3月 ◆全国共済農業協同組合連合会宮城県本部より高規格救急車1台寄贈される
- 4月 ◆消防長に大友秀也氏就任
- ◆高機能消防指令センター運用開始
- ◆消防救急無線施設・設備(デジタル方式)運用開始
- 10月 ◆訓練指導にあたった、大和町女性消防隊が第21回全国消防操法大会において優勝
(黒川消防発足40周年)

平成26年

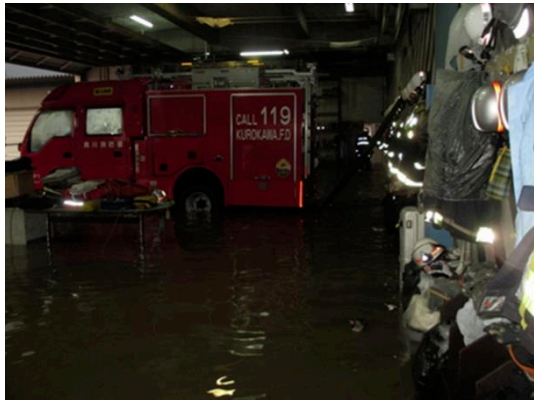
- 3月 ◆本部庁舎西側を整備、新たに屋内貯蔵所を設置
- ◆本部庁舎の耐震補強工事完了
- 4月 ◆消防長に恵津春芳氏就任

平成27年

- 3月 ◆化学車を更新し、黒川消防署大衡出張所に配置
 - ◆本部庁舎西側に会議室を建設
 - 7月 ◆指令車を更新し、本部に配置
 - 9月 ◆関東・東北豪雨により、県内全域に「大雨特別警報」が発令され、消防本部内に警防本部を設置し、水害対策にあたる(救助出場15件 救助人員41名)
- 台風18号や前線の影響により広い範囲で大雨、さらに多数の線状降水帯が発生し、記録的な豪雨となり、吉田川及び支流各地で越水し冠水被害発生、消防本部庁舎も浸水



消防本部周辺冠水状況



消防本部庁舎内浸水状況



救助活動状況



吉田川越水状況



明け方の冠水状況



宮城県広域消防相互応援隊

- 11月 ◆一般財団法人救急振興財団より救急普及啓発広報車1台寄贈され、本部に配置
- 12月 ◆仙台市消防局より高規格救急車譲渡、黒川消防署に配置

平成28年

- 2月 ◆指令車を更新し、本部に配置
- 3月 ◆水槽付きポンプ自動車を更新し、黒川消防署大衡出張所に配置
 - ◆黒川消防署大衡出張所配置の化学車を黒川消防署に配置
 - ◆連絡車を更新し、本部に配置
- 4月 ◆消防長に千葉清氏就任
 - ◆消防職員定数を145名に改正
 - ◆高規格救急車を更新し、黒川消防署富谷出張所に配置
 - ◆黒川消防署富谷出張所に3名を増員し、救急車2台運用を開始
- 7月 ◆資材搬送車を更新し、黒川消防署大郷出張所に配置
- 8月 ◆台風第10号により、緊急消防援助隊宮城県隊として岩手県下閉伊郡岩泉町へ応援出動
(派遣期間7日間、延べ人員21名、6隊)



- 10月 ◆黒川消防署富谷出張所が昇格し、富谷消防署を開署
 - ◆富谷町が市制移行し、富谷市となる
- 11月 ◆連絡車を更新し、本部に配置

平成29年

- 1月 ◆株式会社タガ・アート、浜口ウレタン株式会社より水難救助用ボートの無償貸与を受け、富谷消防署に配置
- 2月 ◆台風第10号に伴う緊急消防援助隊派遣により、消防庁長官賞状授与
◆一般社団法人日本損害保険協会より高規格救急車1台寄贈される
- 4月 ◆富谷消防署6名増員、救急隊2隊を専従化
- 9月 ◆富谷消防署に指揮車を新規配置し運用開始



平成30年

- 3月 ◆水槽付きポンプ自動車を更新し、富谷消防署に配置
- 4月 ◆消防長に坪子一夫氏就任
- 9月 ◆北海道胆振東部地震により、緊急消防援助隊宮城県隊として北海道勇払郡厚真町へ応援出動(派遣期間6日間、人員7名、2隊)



- 10月 ◆富谷消防署に車庫ガレージ建設

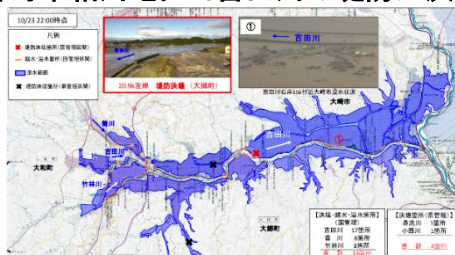
平成31年

- 1月 ◆石巻市大規模林野火災により、石巻市へ応援(宮城県広域消防相互応援に伴う出場大型水槽車、人員2名、1隊派遣)
- 2月 ◆北海道胆振東部地震に伴う緊急消防援助隊派遣により、消防庁長官賞状授与
- 4月 ◆消防長に佐藤喜好氏就任
◆大型水槽車を更新し、富谷消防署に配置



(令和元年)

- 9月 ◆連絡車を更新し、富谷消防署に配置
- 10月 ◆令和元年東日本台風(台風第19号)により、「大雨特別警報」が発令され、消防本部内に警防本部を設置し、水害対策にあたる(救助出場16件、救助人員35名)
大郷町中粕川地区で吉田川の堤防が決壊、支流では越水し各地で冠水し甚大な被害となる。



鳴瀬川水系
吉田川被害状況



消防本部周辺冠水状況



消防本部庁舎内浸水状況



大郷町中粕川地区吉田川越水(決壊)状況





救助活動状況



◆令和元年東日本台風(台風第19号)により、丸森町へ応援(宮城県広域消防相互応援に伴う出場、派遣期間7日間、延べ人員31名、9隊)



令和2年

- 2月 ◆消防ポンプ自動車を更新し、富谷消防署に配置
- 4月 ◆消防本部内に新型コロナウイルス感染症対策本部を設置
- 5月 ◆岩沼市空港南倉庫火災により、岩沼市へ応援(宮城県広域消防相互応援に伴う出場、派遣期間4日間、延べ人員32名、8隊派遣)



- 6月 ◆NET119緊急通報システム運用開始
- ◆119番通報3者間同時通訳多言語対応サービス運用開始

令和3年

- 3月 ◆高機能消防指令システム部分更新運用開始
- ◆高規格救急車を更新し、富谷消防署に配置
- ◆資材搬送車を更新し、黒川消防署に配置
- 4月 ◆消防長に石川勉氏就任
- ◆消防職員定数167名に改正
- ◆富谷消防署女性隊員宿舎運用開始
- 7月 ◆東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会消防・救急体制整備に関する応援協定に伴う派遣(消防車5名、救急車3名を延べ6日間派遣)



令和4年

- 2月 ◆連絡車を更新し、黒川消防署大郷出張所に配置
- ◆連絡車を更新し、黒川消防署大衡出張所に配置
- ◆東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会消防特別警戒により、消防庁長官賞状授与
- 3月 ◆高規格救急車を更新し、黒川消防署大衡出張所に配置
- 4月 ◆消防長に跡部信一氏就任



令和5年(2023年)

- 4月 ◆ 消防長に清野康広氏就任
- ◆ 高機能消防指令システム運用開始



- 9月 ◆ 救助工作車を更新し、黒川消防署に配置



- ◆ 黒川地域消防発足50周年記念誌発行及びワッペン作成



第4編

資料

黒川地域消防本部・黒川消防署の変遷― 35



黒川地域消防本部・黒川消防署の変遷

1973年(昭和48年)発足当初



1983年(昭和58年)



2023年(令和5年)現在



黒川消防本部
黒川消防署
新消防庁舎



2026年
(令和8年4月)
新築移転
供用開始予定



【指標】

- ・貢献
- ・創意
- ・工夫

【署訓】

・使命

我々は、国民の生命、身体、財産を災害から防護する職責を自覚し、誠実、公正、熱烈にその使命を遂行する。

・素養

我々は、消防に関する卓越した知識と技術を修め、訓練に励み、徳操を養い、自律心を養成し、団結、規律、士気を高め、国民から信頼と尊敬を博する。

・成果

我々は、規律を重んじ指揮命令に従い、勇気と忍耐力をもって迅速、的確に行動し、拳署一体の成果をあげる。